

平成 27 年度 第 2 回厚木市地域公共交通会議 概要

開催日時	平成 28 年 3 月 10 日 (木) 午後 5 時から午後 6 時 50 分まで
開催場所	厚木市役所本庁舎 3 階特別会議室
出席委員数	15 人 (全 20 人中、代理出席者含む)
傍聴者数	3 人
会議の経過	<p>1 開 会 事務局</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 題</p> <p>(1) 平成 27 年度事業報告について</p> <p>(2) 地域公共交通確保維持改善事業について 関連があるため事務局が一括して説明</p> <p>(1) 平成 27 年度事業報告について</p> <p>ア 鉄道駅、バス停での駐輪場、歩道の継続整備</p> <p>○<u>サイクルアンドバスライド自転車駐車場の整備</u></p> <p>金田神社前バス停を利用しているバス利用者から自治会に自転車駐車を整備してもらいたいという要望が寄せられました。自治会で可能性を検討したところ、バス停の周辺に自治会が管理している土地があり、無償で市に貸与していただきましたので、サイクルアンドバスライド自転車駐車を整備しました。</p> <p>【名称】 金田神社前バス停自転車駐車場</p> <p>【供用開始日】 平成 27 年 7 月</p> <p>【駐車台数】 25 台</p> <p>イ バス停下屋設置事業の継続整備</p> <p>○<u>上分バス停 (厚木市下古沢地内)</u></p> <p>上分バス停は、厚木市斎場の最寄バス停であり、斎場利用者のバス待ち環境を向上させる必要があります。また、周辺の地域住民は高齢者が多く、日中に運行しているバスは 1 時間に 1 便であるため、運行間隔が開いている状況ですのでバス停下屋を設置し、待合環境を向上させました。</p> <p>また、上分バス停 (厚木市斎場) における路線バスの折り返しについては、平成 25 年度に循環運行から厚木市斎場敷地内での折り返し運行に変更しており、この方法は暫定ということになっていました。</p> <p>調整池周辺の周回路の整備が完了しましたので、路線バスはここで折り返し及び時間調整を行うこととし、2 箇所あったバス停を 1 箇所に集約しました。</p>

○本厚木駅南口バス停15番乗り場

本厚木駅南口15番乗り場からソニー厚木第2テクノロジーセンター行、厚木アクスト行の路線バスが運行されています。南口に3か所ある乗り場の内、13番、14番乗り場には上屋が設置されていますが、15番乗り場には上屋が設置されていないため、バス利用者等から上屋設置の要望が寄せられている状況でした。

また、雨天時には傘の折りたたみ等で乗車に時間がかかり、同バス停の次発の便がロータリー内に滞留してしまうなど、広場内のバス、タクシー、一般車と錯綜する状況が発生していました。バス停に上屋を設置することにより、バスへの乗車をスムーズにさせることで、バスの停車時間を短縮させるとともに、雨天時や日差しが強い日におけるバス停での待合環境を向上させることができました。

なお、今後、本厚木駅南口地区市街地再開発事業の工事が着手されますので、駅前広場の拡充整備に着手するまでの暫定供用となります。上屋については、市内の他のバス停に移設いたします。

○通信研究所前バス停

第1回の会議では、睦合東中学校入口バス停（妻田北地内）または、仲町バス停（長谷地内）に上屋を設置する計画でしたが、バス事業者や道路管理者と協議したところ、利用状況を考慮し、通信研究所前バス停（森の里若宮地内）に設置することになりました。森の里地域にある通信研究所前バス停は、松蔭大学に隣接しており、大学生や周辺企業社員の利用が多いことから、上屋を設置することになりました。

ウ 集中するイグレス交通の対応強化

○路線バスの輸送力の強化（イベント路線）の検討・実施

荻野運動公園、ぼうさいの丘公園、上古沢緑地などへの連絡

本年度は市制施行60周年記念事業が多く実施されていました。参加者が乗用車で訪れると、周辺交通の道路混雑が発生する場合があります。その対応として、厚木バスセンターから荻野運動公園まで路線バスの利用を促し、臨時便の運行を実施しました。

今後については、引き続きイベント時における輸送を実施するとともに、ピーク時に集中する需要に対する路線バスの増強や企業送迎バスの公共交通への転換など輸送力の強化を検討していきます。

【実績】

- (1) プラス・ジャンボリーin あつぎ 11便
来場者800人中、約200人がバスを利用
- (2) 大相撲厚木場所 5便
来場者2,500人中、約170人がバスを利用

エ 路線バスの新規路線、経路変更、バス停の追加等の検討・実施

厚 101 系統 バイパス経由厚木バスセンター行、半原行

厚 01 系統半原発厚木バスセンター行の朝・夜 2 便が、国道 412 号を運行する経路に振り替えることになりました。睦合西地域の新道公所～愛光病院前バス停はバス便が増加することになります。この路線は厚木市域、愛川町域を運行するので、愛川町と連携して、バス事業者に要請し実現することになりました。

本路線は主に愛川町半原方面からの利用者が多く、本厚木駅への速達性が向上しました。この路線は愛川町から本厚木駅へのアクセスに重要な路線となりますので、引き続き、愛川町と連携して利用者の利便性が向上する取組を進めていきます。

【厚木バスセンター方面】

変更前（まつかげ台発）	増便数（半原発）	合計
7 便	2 便 7 時台：2 便	9 便

【半原・まつかげ台方面】

変更前（まつかげ台行）	増便数（半原行）	合計
5 便	2 便 19 時台：1 便 21 時台：1 便	7 便

（ 2 ）地域公共交通確保維持改善事業について

バス事業者、交通事業者がノンステップバス、福祉タクシーを導入するに当たり、厚木市地域公共交通会議において、生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備事業）を策定し、国に補助金の申請を行いました。背景には、平成 27 年 12 月 18 日に閣議決定した国の平成 27 年度補正予算において、本事業が盛り込まれましたので、事業者が追加申請を行いました。なお、申請前に会議を開催することが困難であったため、書面表決により委員の合意をいただきました。

【書面表決日】 平成 28 年 1 月 25 日

【導入車両】 ノンステップバス 8 台から 9 台に変更
神奈川中央交通(株)
福祉タクシー 1 台 相模中央交通(株)

平成 28 年度におけるノンステップバスの導入については、神奈川中央交通(株)が大型 9 台を導入します。本日の会議で生活交通改善事業計画の合意が得られました。

【主な意見】

- ・厚 101 系統はバイパスを走行することになり、駅への到達時間は短縮されたのでしょうか。

経路変更実施前から調査をしていましたが、市立病院前交差点の国道 129 号への合流、水引交差点の左折により状況は変わります。半原からは自家用車と同じくらいの時間で本厚木駅に着けるようにしたいです。

- ・高齢者や車椅子の方がこの時間帯にバスに乗ることは可能なのでしょうか。

国、厚木市から補助を頂き、ノンステップバスを導入していますが、車椅子の方もバスに乗車することが可能です。今までは車椅子を固定する器具の用意に時間がかかっていましたが、ワンタッチで用意することができるようになりました。通常の方に比べれば車椅子の方の乗車は時間がかかりますが、ストレスを感じずにバスに乗車していただくことができます。

- ・ノンステップバスを増やしていくに当たり、バス停まで行き易い、バスから降りた後に歩き易い歩道整備もセットで考えてもらいたい。
- ・厚木市立病院のバス路線について、市営の病院ですので市民が利用しやすい環境を考えていただきたい。
- ・これから先の高齢化を考えると病院へのアクセスはニーズが増えてきます。病院の送迎バスを出すという方法もありますが、路線バスをうまく活用する考えもあります。バスを乗り継いだ際に IC カードの割引が可能か等を検討する必要があります。

(3) 今後の高齢社会に向けた移動手段について

国では急速に進む高齢社会に対応して、地域包括ケア社会の実現を目指しており、本市としても今後、重点的に取り組むべきテーマとしています。厚木市地域公共交通会議では、市民、行政、警察、交通事業者、学識経験者で組織し、地域の実情に即した輸送サービスを議論していただく場がありますので、地域包括ケアの観点での移動手段に着目し、今回、議題としたものです。

【公共交通の特徴】

本市の公共交通の特性は、小田急線本厚木駅が市域の南東側にあることから、バス交通が主要な公共交通となっており、駅から放射状にバス路線網が形成されています。DID（人口集中地区）内における、鉄道駅やバス停からの徒歩圏カバー率は8割を超えている状況であり、バス路線網が発達しています。

本厚木駅の乗降客数は、1日当たり約147,000人で非常に多く、その背景としては、郊外を中心に多くの企業や大学が立地しており、日中に多くの人を訪れ（昼夜間人口比率が高い）駅からの移動手段であるイグレス交通としてのバス利用者が多い特徴があります。

【コミュニティ交通の運行】

近隣市町村で小型のバス等により運行が行われているコミュニティ交通については、バス路線が無い、もしくは無くなってしまった場合、地域の移動手段を確保するために行政が運行しているケースが多くなっています。本市では、路線バス網が発達していることから、現状ではコミュニティ交通を直ちに運行する必要性は低いと考えています。しかしながら、今後の超高齢社会に対応した交通環境を考えた際、地域の特性に応じた交通手段の確保について、検討していく必要性を認識しています。

【厚木市のコミュニティ交通の考え方】

本市では、平成21年12月に策定した「厚木市地域公共交通総合連携計画」の中で、コミュニティ交通に関する考え方、基準を設けています。同計画では、「地域自らが主体となり支えあう仕組みづくり」の検討を進め、厚木市はその支援を行うこととしています。地域の問題を最もよく知る住民の皆様が主体的に取り組んでいただき、地域の交通を守り育てていくことにより、継続的な運行が期待できます。こうした地域が主体となり育成させる交通手段を、厚木市では「コミュニティ交通」と呼ぶこととしています。

【対象者】

自宅から出られない訳ではないが（介助が必要ではなく）駅やバス停、スーパーマーケット等の目的地まで徒歩で向かうことが困難な方として考えます。

【移動手段】

バス、タクシー等の市内の主な交通手段の他、他市で導入されている事例、理想的な移動手段など、上記のような方の為の移動手段を検討していきます。

【交通会議での議論】

本日の会議では、今後の高齢者の移動方法について、総論的な議論をお願いします。今後の高齢者の移動手段をこの場で決定するのではなく、委員の皆様のご意見を踏まえて市の中で十分に議論を重ねたいと考えています。今後の交通会議におきましても、継続的に高齢者の移動方法等を議論していきたいと考えています。

【主な意見】

- ・ 県の黒岩県知事は、「未病」を県のキーワードにしています。体力が衰えないよう先手を打ち、健康な方が健康でいられる時に外出をする。普段から歩ける楽しいまちづくりをするという先手を打てば、75歳以上の方の健康な割合が高まるかもしれません。
- ・ これから先の交通課題は対策型よりも予防型、先手を打ち取組の議論をしていかなければなりません。コミュニティ交通やデマンド交通に関しては対策型となり、もう少し先を考えた議論ができれば良いと思います。
- ・ 今後は人口の高齢化率とバスの輸送実態を議論し、バス路線自体を変えることを考えていく必要があります。
- ・ コミュニティ交通やデマンド交通を高齢者に周知する際、うまく伝えることが難しいので、高齢者でも分かるような仕組み、説明を今後検討していただきたいと思います。
- ・ 1週間、1か月でも実験的に実施し、市民が体験することによりコミュニティ交通がどの程度のものか知ってもらうことも必要ではないかと考えます。
- ・ 本日の議論はバス事業者、タクシー事業者の方を含めて、今後、どのようにして考えていくかというきっかけづくりになれたと思います。高齢者の方々に元気で生活してもらう際のバスとして考えた際、どのような路線が良いのかを考えてもらいたいです。
- ・ 人口の変動によりバス路線を考えなければいけないという話がありましたが、そうなるコミュニティバスは必要になると思います。その際、費用がかかりますので、利用者の負担として、運賃を多く取っても良いのではないのでしょうか。
- ・ コミュニティバスがこの先重要になってくるということは賛成するところです。多くの場所を回ろうとすると長大な路線となってしまうので、結節点を設け、様々な場所に中距離、短距離で行けるようにする考え方があると思います。
- ・ 高齢社会の中で地域ニーズに密着した乗り物として走ることが大事であることは間違いがありません。このような乗り物が必要な際は、地域の方々も一緒に協力していかなければなりません。
- ・ コミュニティ交通のサービスに対して、どの程度の費用負担で、どの程度の方が乗りそうかということを議論する必要があります。

**3 厚木市・日産自動車グリーンモビリティ・プロジェクト
水引-中央公園西側交差点オフセット変更による交通流改善効果
資料に基づき日産自動車株式会社が説明**

【概要】

第1回の交通会議において、厚木市・日産自動車グリーンモビリティ・プロジェクトの取組について報告をさせていただきました。その中で、厚木市内の交通流の円滑化に向けた研究的な取組を進めていくということで、いくつかのアイデアを報告しました。今回はそのアイデアの対策案の中から、神奈川県警本部にも御尽力をいただき、実施に至ったケースの報告をさせていただきます。

【交通流改善の将来構想検討】

- ・厚木市・日産自動車グリーンモビリティ・プロジェクトにおいて、水引東西方向における交通流改善方策の検討を実施し、水引-中央公園西側交差点のオフセット（交差点間の信号の青を開始する時間のずれ）調整が効果的である可能性が見出されました。
- ・この検討を基に、神奈川県警本部にて追加検討及び、実地調整を行い、平成27年10月26日午前9時から、水引-中央公園西側交差点間のオフセットを100秒から85秒に変更しました。
- ・バス事業者から提供していただいた対象区間のバス走行データを分析したところ、水引交差点東西方向のバスの速達性について、改善効果があったことが確認できました。

【主な意見】

- ・これはとても大事な仕事をしていると思います。資料については、分かり易い形にして市民の方向けに広報すべきだと思います。
- ・警察の協力と日産のシミュレーションを使い、渋滞の改善効果があると示すことは、社会的なインパクトが相当あると思います。このような活動をしているということが大事であります。
- ・いままで一番混んでいた朝のラッシュ時が良くなりましたが、10時台には物流センターが開き、大型の貨物車が入ってきますので、厚木高校から水引交差点間はまだ渋滞しています。厚木市民の方が駅に向かうことに関しては良くなったと思いますが、逆に市外から来る方が渋滞に巻き込まれてしまうこともあります。次のステップを考えていただきたいと思います。水引は渋滞個所とされているので、今後もよろしく願います。
- ・是非、こういった取組は公表していただき、市民の方々に交通に関心をもってもらうことが大事であります。

4 その他

5 閉会 事務局